

世界の先進事例に学ぶ国際シンポジウム 首都圏と東京湾の共存を考える

全体期間

2005. 11

人口や産業の都心回帰の流れが一段と強まるなか、都市再生プロジェクトの展開や高層マンションの建設ラッシュなど東京湾のウォーターフロントが大きく脚光を集めている。また、「赤潮の頻発」、「お台場公園へのオイルボールの漂着」といった東京湾の病んだ環境にも社会の目が向けられるようになってきている。ウォーターフロントの開発が東京湾の水環境を人々の身近なものとして、環境改善に対する社会的ニーズの拡大につながるとすれば、東京湾の「水環境の保全」と「湾岸地域の開発」は協調関係にあるといえる。

そこで、国土交通省と東京海洋大学が協力し、東京湾再生推進会議の後援を受けて、国際シンポジウムを開催した。

シンポジウムでは、米国の専門家による基調講演、国内の研究者・都市プランナー・行政担当者によるパネルディスカッションを通し、首都圏と東京湾の共存のために今後進むべき方向を探った。

以下に、シンポジウムの概要を示す。

(シンポジウムの概要)

- 日 時：2005年 11月21日(月) 13:00～17:00
- 場 所：東京海洋大学品川キャンパス 楽水会館
- 主 催：東京海洋大学・国土交通省 後援：東京湾再生推進会議
- 定 員：100名(当日の参加者：120名)
- 費 用：無料

(プログラム)

- 開会挨拶 東京海洋大学副学長 岡本 信明
- 講 演 「都市のウォーターフロント戦略」
米国ウォーターフロントセンター 理事長 アン・グリーン
「ウォーターフロント受賞プロジェクトを振り返る」
米国ウォーターフロントセンター 理事 ディック・リグビー
「三都物語：なぜ水質改善がウォーターフロント開発のために重要なのか」
米国サンフランシスコ湾研究所 理事長 マイケル・コナー
- パネルディスカッション <首都圏と東京湾の共存を考える>
コーディネーター：内海 豊(日刊建設工業新聞編集局長)
パネリスト : アン・グリーン ディック・リグビー マイケル・コナー
石丸 隆(東京海洋大学教授)
岸井隆幸(日本大学教授)
原田敬美(都市政策研究所所長, 前港区長)
藤木 修(国土交通省都市・地域整備局下水道部流域管理官)
- 閉会挨拶 国土交通省 都市・地域整備局下水道部流域管理官 藤木 修

研究担当者：堀江 信之，加畑 雅宏，古谷 猛裕

キーワード

ウォーターフロント シンポジウム